

# A Special Symposium on Contemporary European Documentary

## Punk, Flamenco, Immigrants and Refugees

欧州ドキュメンタリー映画の今：パンク、フラメンコ、移民、難民

17th October 2013 18:00-20:00

Bldg 7, 14F, Conference Room, Sophia Univ.

Language / English

日時: 2013年10月17日(木) 時間: 18:00~20:00

場所: 7号館14階特別会議室 使用言語: 英語 通訳なし

事前申し込み不要 無料

In collaboration with the 2013 Yamagata International Documentary Film Festival (October 10 to 17) the European Institute is pleased to invite four leading European documentary filmmakers to screen excerpts from their films and talk about their work at a Special Symposium on contemporary European Cinema.

Eva Vila / "Bajari: Gypsy Barcelona" / Spain

J-P Passi / "The Punk Syndrome" / Finland, Norway, Sweden

Philip Scheffner / "Revision" / Germany

Mahdi Fleifel / "A World Not Ours" / Palestine, Denmark

Moderator / John Williams (Sophia University)

山形国際ドキュメンタリー映画祭参加の新進気鋭の監督4人が上智に集結！  
作品の一部を上映し欧州ドキュメンタリー映画の今について語ります。

エヴァ・ヴィラ監督 / 「ジプシー・パルセロナ」 / スペイン

J-P パッシ監督 / 「パンク・シンドローム」 / フィンランド、ノルウェイ、スウェーデン

フィリップ・シェフナー監督 / 「リヴィジョン/検証」 / ドイツ

マハディ・フレフェル監督 / 「我々のものではない世界」 / パレスチナ、デンマーク

モデレーター / ジョン・ウィリアムズ(上智大学)

European Institute  
Sophia University

上智大学ヨーロッパ研究所  
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1  
上智大学中央図書館7階 721B  
Tel: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sophia.ac.jp

## 映画の紹介

### ◆パンク・シンドローム J-P ・パッシ

©YIDFF 2013

フィンランドの、知的障がいをもったトニ、サミ、ペルティ、カリの4人で構成されたパンクロックバンド。彼らの音楽は自由への欲求や社会に対する怒りを力強くシンプルに表現し、多くのパンクファンに愛されている。カメラは彼らの日常に寄り添い、バンドの練習、ライブの成功、楽曲発売に至るまでを中心に記録。メンバーの間違った個性と魅力、彼らの間に生まれる感情の揺れ動きが軽やかに描かれる。フィンランド社会を取り巻く福祉の現状も伝えつつ、「病」とは何かを改めて問いかける。



### ◆ジプシー・バルセロナ エヴァ・ヴィラ

バルセロナのジプシー社会にとって、フラメンコはどのような意味をもつのだろうか。伝説的なダンサーを叔母にもつカリメ・アマヤは、超絶技巧の足さばきをステージで披露し、観客の目を釘付けにする。ファニートはまだ幼いながら軽やかな身のこなしで、街角にくつろぐ市民を魅了する人気者だ。フラメンコの伝統はバルセロナの人々の誇りであり、その技は厳しくも温かい視線によって、世代から世代へと大切に受け継がれている。



### ◆リヴィジョン／検証 フィリップ・シェフナー

1992年、ドイツとポーランド国境のトウモロコシ畑で、ルーマニアからやってきたふたりのロマ人の不法移民の死体が発見される。2012年、監督のフィリップ・シェフナーはドイツ当局から「ハンターによる誤射」で片づけられたこの事件について、関係者の証言と独自の調査結果、風景や資料をパズルのように組み合わせ、「映画の検証」を施していく。スリリングな試みのなかから、この地に根ざした暴力と差別の歴史が浮かび上がり、事件の意外な側面が見えてくる。



### ◆我々のものではない世界 マハディ・フレフェル

北欧に移住したパレスティナ難民の監督が、かつて住んだレバノン南部のパレスティナ難民キャンプに里帰りするたびに撮影した映像と、父の残したホームビデオなどを織り交ぜ、家族や友の歴史、難民キャンプの変貌を、素直な語り口ですくい上げる。パレスティナの置かれている悲劇的な状況が、当事者でもなく、完全な第三者でもない視点から紡がれていく。タイトルは1972年に暗殺されたパレスティナ人作家、ガッサン・カナファーニーの小説名からとられている。



### \* お問い合わせ \*

上智大学ヨーロッパ研究所 Tel: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sophia.ac.jp